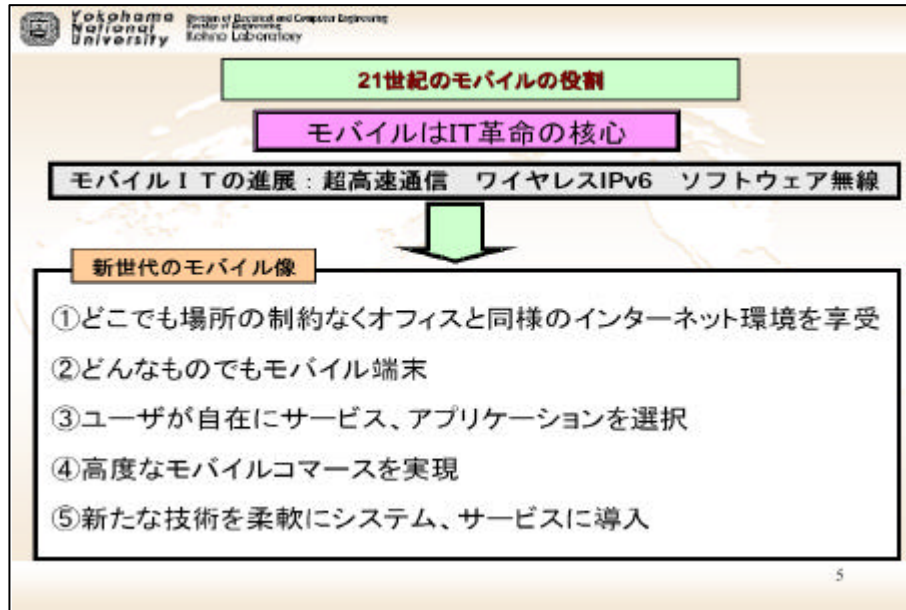
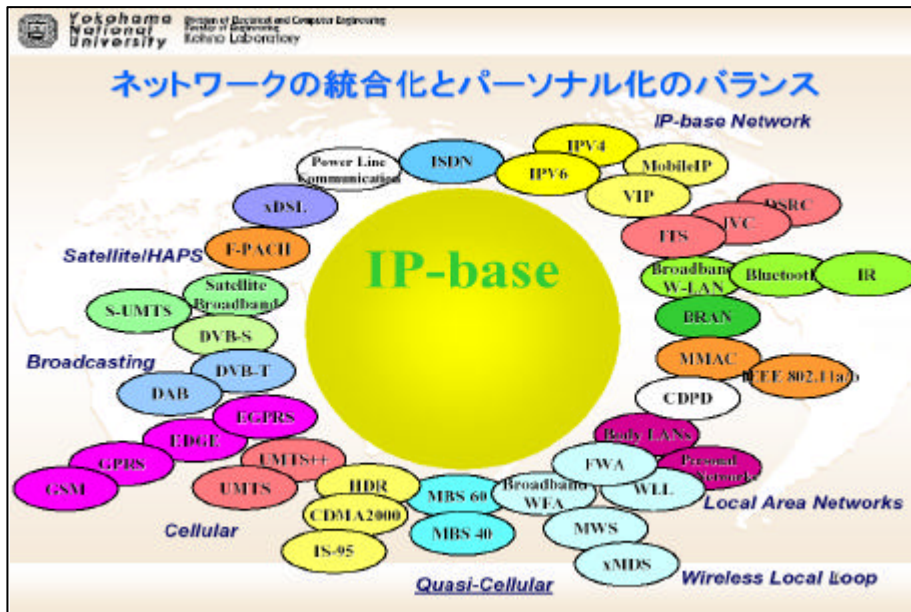


図88：21世紀のモバイルの役割



もう1つのキーワードは、こうした物理的に異なるネットワークを渡り歩く時に、こういったネットワークの統合化ばかりではなくて、むしろハードウェア的なトランスペアレンシー、あるいはリコンフィギュレーション、コンフィギュレーションといったシステムの仕様なりスペックなりをリコンフィギュア、再三変えていけるという能力がソフトウェア無線として知られていますが、こういった分野にももちろん……。ネットワークの統合化とパーソナル化は相反する要素ですが、それぞれに必要な要素技術として、この2点が注目され、私どもがその中で研究を進めております。

図89：ネットワークの統合化とパーソナル化のバランス



皆さん、ソフトウェア無線は良くご存じかと思いますが、お手元の資料はなくて、いまふっと気がついて付け足しました。申し上げたとおり、色んな無線の機能、変調や符号化、周波数帯域が違うとかといった個々の物理的な要素をソフトウェアで書きかえてしまう。すなわち、1つのハードウェアでソフトウェアを書きかえていく、リコンフィギュアしていただくだけで多様に使い分ける事が出来るものをソフトウェア無線と呼んでおりまして、必ずしも適切な用語ではないのですが、旧来からの概念でいえば、万能無線機であり、適応無線機であり、マルチモードの無線機。「旧来からの」と申し上げたのは、ソフトウェア無線は、決してそういう電氣的・無線的な話だけではなくて、むしろコンピューターサイエンスの方でその価値が注目されているもので、その中には、システムを变身させるような機能をどう具現化していくかというコンピューターサイエンスの新規の概念が必要になってくるわけです。

これはよくお見せする絵ですが、例えばPDAのようなものは、ご家庭ではテレビでやる。それが通勤の途中ではカーナビに变身する。もちろん携帯電話になる。オフィスではワイヤレスLANになる。そのようなシステムを他モードに変えるという事。そして、いまの絵のように、ワイヤレスリンクでその中身を書きかえるシステムコンフィギュレーション自体もダウンロードサービスという事。そのような概念とお考えいただき